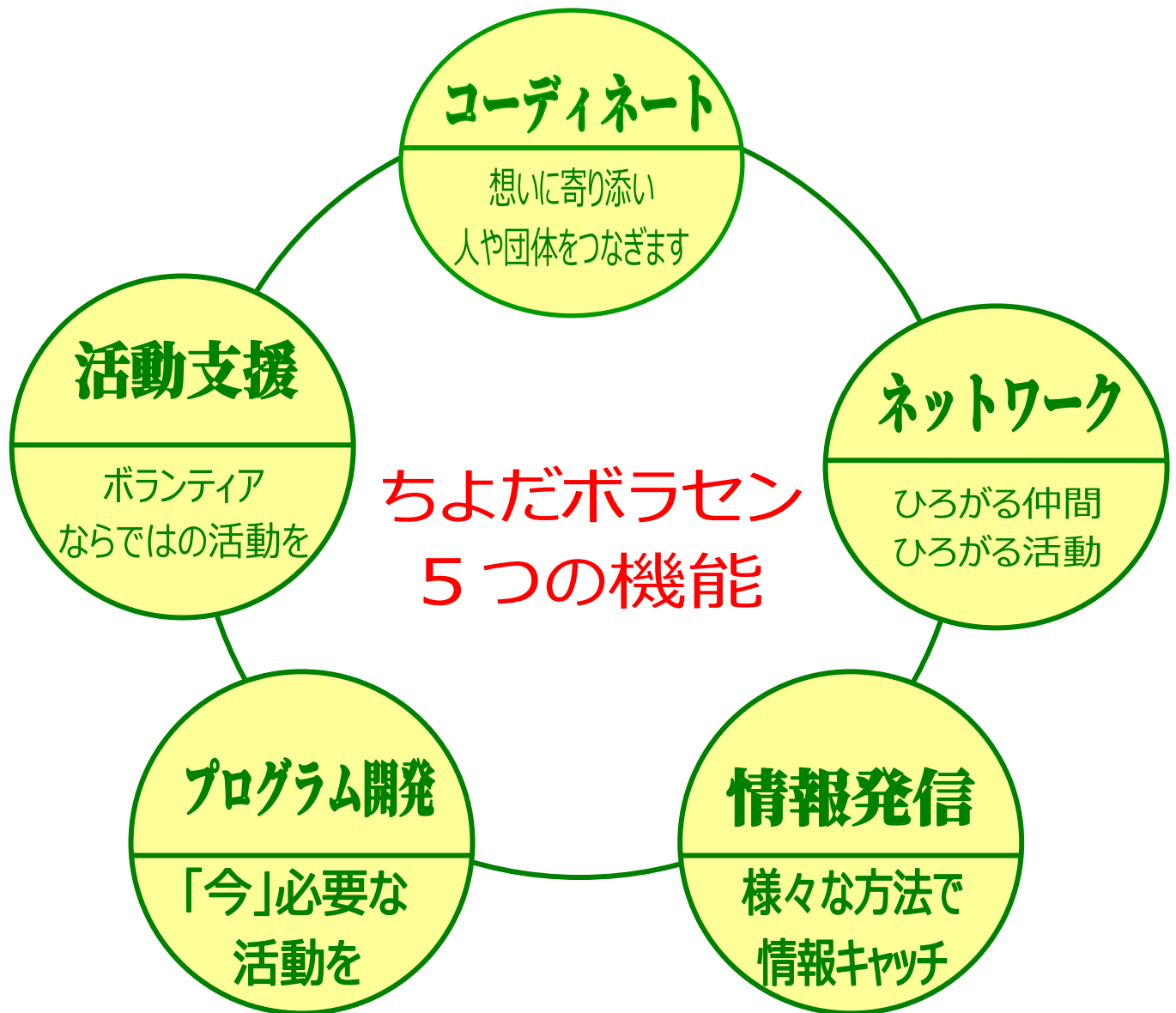


ちよだボランティアセンター・レポート

令和6年度報告



～みんなが参加し、ささえ合うまちづくり～

社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター

〒102-0074 千代田区九段南 1-6-10 かがやきプラザ 4 階

電話 03-6265-6522 FAX 03-3265-1902

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.jp URL <https://www.chiyoda-vc.com/>

ちよだボランティアセンターは「千代田区に住み、働き、学ぶ人がお互いに気にかけて
笑顔が生まれるまち」を目指しています。



【1】ボランティアの登録・活動状況

年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
個人ボランティア登録者	68 名	120 名	235 名
登録グループ	115 団体	120 団体	135 団体
活動件数	6,781 件	7,466 件	4,611 件
活動延べ人数	32,878 名	31,851 名	25,831 名
相談件数	699 件	779 件	1,057 件

【2】ボランティア等の相談状況

相談内容	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
ボランティア活動希望	76 件	101 件	159 件
ボランティア募集希望	23 件	44 件	61 件
※その他の相談	600 件	634 件	837 件

※「その他の相談」の内訳

	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
ボランティアセンター事業問合せ	—	89 件	107 件
企画協力	—	24 件	40 件
企業の社会貢献活動	—	36 件	65 件
団体の設立・運営支援	—	23 件	14 件
広報	260 件	373 件	326 件
その他(災害支援、寄付、物的資源の活用、保険など)	—	89 件	285 件
合計	600 件	634 件	837 件

※福祉総合相談システム改築の影響により、令和 6 年度は内訳の算出が困難なため略

■分野別活動延べ人数

種 別	内 容	令和6年度	令和5年度	令和4年度
施 設	高齢者施設、障がい者施設、児童施設、美術館、博物館など	3,700名	3,725名	3,296名
ボランティアグループ NPO等	国際協力、障がい者支援、高齢者支援 環境保護、子ども・家庭支援、手話など	10,075名	18,861名	18,541名
個 人	使用済み切手整理、傾聴ボランティアなど	259名	226名	494名
社会福祉協議会事業	ふれあいサロン、地域行事他	10,033名	9,510名	9,520名

【傾向と課題】

- ①個人ボランティア登録者は、昨年度に続き更新手続きを行ったため人数は半減したが、活動意欲のある登録者の把握することができた。
- ②個別ケースに関わっている個人ボランティアは継続して活動に取り組んでいるが、新規相談に対し、個人ボランティア登録者だけでなくボランティアグループや企業等の団体での関わりも増えているため、個人ボランティアの活躍の機会は減少傾向にある。
- ③ふれあいサロンの他に地域行事等でもボランティアが社協と協働し、活躍する機会が増えつつある。

【3】個別ボランティアコーディネート

「制度の狭間」にある個別の生活課題に、多様なボランティアによる関わりだからこそできる支援を調整しています。

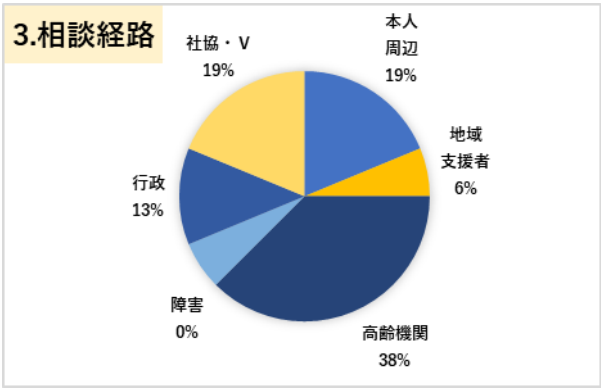
個別支援の対応件数

	令和 6 年度	令和5年度	令和4年度
新規	30 件	23 件	16 件
継続	3 件	5 件	9 件
合計	33 件	28 件	25 件

支援内容の内訳 ※重複支援含む

支援内容	件数
傾聴(話し相手)	12
外出支援	5
家族のレスパイト	1
語学・通訳・学習支援	3
余暇活動のサポート	3
買い物サポート	1
自宅の整理・清掃・引っ越し	2
他機関へのつなぎ・情報提供等	6

相談経路



【傾向と課題】

- ①以前から問合せの多い傾聴・外出支援などの相談に加え、ご本人との交流を目的とした囲碁、○○などのレクリエーションを行えるボランティアの相談が増えている。
- ②前年度に引き続き外国人住民からの相談は増加傾向にあり、特に通訳支援、日本語学習支援などの相談が増えている。
- ③新規相談件数、個人ボランティア登録者数共に減少傾向にある。
- ④活動期限を設け(長期支援の場合は原則 1 年)本人の変化などアセスメントしていくことが重要。

好きなことをサポートするボランティア (余暇活動のサポート)

【相談内容】

要介護5で、目はほとんど失明状態の高齢独居女性。過去に朗読ボランティアグループが自宅へ来て図書の読み聞かせをしてくれていたが、コロナで途切れてしまったため、またそのような読み聞かせをしてくれるボランティアを探している。(本人からの相談)

【対応】

ボランティアセンターで団体登録をしている朗読グループに声をかけ、グループ内でローテーションを組んでもらいその方の自宅で週1回の読み聞かせ活動がスタート

【活動を通して生まれた変化】

今回活動をお願いした朗読グループは、昨年度まで行っていた「声のおたより」が終了してしまい、活動の幅が狭まってしまっていたため、グループとして携われる新たな活動を創出することができた。
また最初は活動に対して色々な条件を提示していたが、実際に顔合わせを行い本人の意向を聞いたことで、本人に寄り添った活動をすることができるようになった。
ボランティアを希望していた本人も、楽しみにしていた図書の読み聞かせを再開することができとても喜んでいる。

【4】ボランティア理解促進・活動支援

■ボランティア登録説明会・学習会

個人ボランティア学習会「聞き上手になるためのコツ～傾聴のススメ～」

【目的】

- ・平日に活動できる新たな個人登録ボランティアを募る。
- ・“傾聴”をきっかけに、ボランティア活動に関心を持ってくれる人を増やす。

【参加者】 48名

【成果】

- ・参加者の2割がボランティア経験がなく、この学習会をきっかけに傾聴ボランティアから活動を始めようという方や、参加者の4割が、傾聴活動に今回の学習会の経験を活かすことができるといった回答。
- ・個人ボランティア新規登録者は3名。既登録者は3割ほど参加した。
- ・平日の昼間に活動できそうな区民の参加が全体の半数近くだった。参加者の年齢層から見ると60～70代の参加者が一番多かった。



【参加者の感想】

- ① 傾聴と聞くと堅苦しく重いイメージがあったが、あまり構えなくても楽しくお話ができればいいのだと気持ちを楽に捉えることができた。
- ② 学習会に参加して、個人ボランティア活動に興味を持った。

■福祉出張講座の実施

ボランティアや NPO 等の協力で、車いすの操作方法や手話体験、ボランティア入門講座などの出張講座を区内の学校や企業で実施し、ボランティア・市民活動への理解促進を図る。

	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
開催数	15 回	12 回	10 回
延べ参加者数	2,138 人	2,194 人	1,809 人
実施内容	・ボランティア入門講座(5校) ・手話体験(3校) ・車いす体験講座(5校) ・アイマスク体験(2校) ・盲導犬講座 ・切手整理ボランティア	・ボランティア入門講座(5校) ・手話体験(6校) ・車いす体験講座(4校) ・アイマスク体験 ・盲導犬講座(3校) ・切手整理ボランティア	・ボランティア入門講座(4校) ・手話体験(2校) ・車いす体験講座(2校) ・アイマスク体験 ・盲導犬講座 ・切手整理ボランティア



▲車いす体験講座



▲盲導犬ユーザーによる盲導犬の話

【傾向と課題】

- ① 学校だけでなく、企業からの問合せも増えてきている。
- ② 福祉出張講座実施のためのチラシやメニュー表を作成することで、新たな学校からの申込みもあった。
- ③ 通信制や私立学校からの申込みが多くを占めるため、公立校へのアプローチも続けていく必要がある。

【5】災害に関する取組み

■災害ボランティアセンター開設・運営訓練

参加者数:社協職員 32 名／公募参加 21 名

「災害ボランティアセンター(以下、災害 VC)開設・運営訓練」を、地域住民や区内企業、NPO・NGO の方々など「区民参加型」訓練として実施。



災害 VC 開設運営訓練の様子



困りごととニーズのヒアリング

【成果】

- ① 区民参加型の訓練とすることで、社協職員と区民で、災害ボランティアセンターの設置・運営のイメージを共有し、平時からできることについて話し合う機会となった。
- ② 初の試みとして、被災者のニーズを適切に把握する訓練を実施。被災者心情に寄り添い、ボランティア活動のコーディネートにつなげる意義を相互に学び合うことができた。

■CMN(ちよだ災害モデルネットワーク)の取組み

CMN は、災害学習会に参加したメンバーで立ち上げ、学習会の企画やネットワークづくりのための情報交換に取り組み、ネットワークの中核で顔が見える関係を築いている。また、CMN が災害時に具体的にどのような支援行動をとるか、行動指針の作成を進め、令和 7 年3月現在 35 団体がネットワークに加盟。



最新の行動指針は、こちらの QR コードを読み取ってください。

■災害学習会の企画・開催

ちよだ災害モデルネットワーク学習会 ～千代田区の防災事情を知る～

【内容】

CMNの参加者や属性も多様化している。発足以来、様々な学習会を実施してきたが、基本に立ち返り、千代田区の最新の防災事情について学ぶ学習会を実施。

21 団体 32 名参加

【成果】

参加の半数以上が CMN 学習会に初めて参加された方で、ネットワークの機能や役割などをより周知することができた。

【傾向と課題】

広く参加できる学習会には比較的多くの方が参加するが、メンバーへの加入にはつながらないことが多い。

■災害時の自助・協力の意識醸成

災害時寄り添いサポーター養成講座

【内容】

災害時の避難の際、高齢者や障がいのある方など配慮が必要な方々を支えるための基本的な知識を身につけ、普段からサポートが必要な人の気持ちに寄り添う人材の養成講座を実施。

全 3 回 のべ 30 名参加

災害ボランティアフォーラム 2025

【内容】

区内の防災・減災活動に係る課題をテーマに、ゲストとともに参加者が平時からどのような行動を取ればいいのかを考えるイベント。
『「災害時に、日常からやっていることを活かすためには」～フェーズフリーの考え方～』をテーマとした。

12 名参加

大学生災害ボランティア養成講座

【内容】

区と災害協定を結んでいる大学の在学学生を対象に、千代田区の地域特性を踏まえた被害想定や、大学生だからこそできる支援活動を伝えた。

全 6 大学 のべ 185 名参加



【6】企業・社員のボランティア活動

■ちよだ企業ボランティア連絡会

会員企業:16社

ちよだボランティアセンターが事務局となり、社会貢献活動に関心を持つ区内企業との協働で事業の企画・開催、及び情報交換を実施。

- ① 企業同士がつながり合いどのような社会貢献活動ができるか、情報交換を行い、コロナ前同様に対面開催の協働企画を再開。
- ② 学習会を開催し、区内の福祉施設の課題に対し、何ができるかを検討。



地域コーディネーターとの出会いから生まれた 公立中学校 模擬面接会での面接官

「学校と地域の橋渡し」を担う地域コーディネーターへのアウトリーチをしたことをきっかけに、区内公立中学校と企業ボランティアとの新たな活動が生まれた。

【学校が抱える課題】

・コロナ禍を経て学校と地域の関わりが少なくなったことで、生徒が地域の大人と関わる機会が少なくなってしまった。

【学校のニーズ】

- ・コロナ禍を経て閉ざされた中学校が再度地域に開かれ、今後も地域と学校の交流が活発になってほしい。
- ・子どもたちの成長段階で、他の大人との関わりから刺激を得てほしい。



事前オリエンテーションの様子

●新しく生まれた活動

公立中学校 地域模擬面接会での面接官

中学3年生向けの模擬面接会の際に、企業ボランティアが模擬面接官となって、面接を行った。活動前には中学の先生方からの事前オリエンテーションが行われたため、当日は双方不安なく活動を行うことができた。また面接の臨場感を出すため、企業ボランティアにはスーツを着用してもらい、本番さながらの雰囲気づくりを行った。

生徒にとっては、親でもなく先生でもない大人と関われる良い機会となり、学校としても途絶えていた地域との繋がりが再開され、とても良い機会となった。企業ボランティアにとっては、需要の高い平日日中の活動ということに加え、興味関心の高い「次世代育成活動」に携われたということもあり、双方ともに満足度の高い活動となった。



■ちよだボランティアクラブ

企業とその社員が、地域のボランティアグループや福祉施設等とつながりを持ち、法人としての企業と個人としての社員が地域福祉の推進を図る。

企業は、任意で自社の社員が地域や施設等でボランティア活動をした時間に応じた金額を社会福祉協議会に寄付し、社会福祉協議会は、その寄付金をボランティア活動の受け入れ団体等に配分。

	令和 6 年度	令和5年度	令和4年度
参加企業数	64 社	81 社	75社
マッチング企業※	18 社	19 社	18社
受入れ団体数	55 団体	55 団体	55 団体
総活動時間	615 時間	929 時間	664時間
寄付金額	480,000 円	484,000 円	232,000 円

※マッチング企業

社員のボランティア活動を受け入れた団体に対し、社員の活動時間に応じ金額の寄付を行う企業

**企業の強みを活かした取り組み
体験&交流型支援プログラム**

①金融保険教育
・明治安田生命保険相互会社 品質管理部
×千代田区立 はくちょう教室

②会社見学
・明治安田生命保険相互会社 品質管理部
×千代田区立 はくちょう教室



明治安田生命による、金融保険教育と会社見学での社員へのインタビューの様子

【傾向と課題】

- ① 小規模の地域福祉課題解決に向けた活動への関心が増えてきた一方で、大規模単発型活動へのニーズも高まってきている。
- ② コロナの緩和と共に社会貢献活動を始めようとする企業の問い合わせが増加しているが、活動内容が漠然としていて実際には活動につながりにくい印象がある。

【成果】

- ① ボランティアセンターを通して初めてつながった企業と施設との定期的な活動が生まれた。
- ② 小規模でも地域の福祉課題解決に向けた活動に関心を持つ企業が増えてきた。

【7】大学生のボランティア活動

■ちよだ学生ネットの取り組み支援

区内大学のボランティアサークル同士のつながりである“ちよだ大学生ボランティアサークルネットワーク”。千代田区でのボランティア活動の促進を図るとともに、学生ならではの視点の活動で、地域とのつながりを一緒に作っている。①サークル同士の交流の場、②災害にそなえた、平時からつながる場、③千代田区に貢献できる取り組みができる場、という 3 つの機能を持ち、定期的な情報交換と打合せを行い、ちよだ学生ネットとして地域とのつながりを作っている。

みんな集まれ！大学生といっしょ／大学生と宿題を進める会

【内容】

千代田区内で、小中学生の不登校・発達特性があるなどの児童が増え、環境適応、人間関係の構築でつまずく子どもが増えているとの相談が増加。令和4年10月から約1年半、月2回「大学生と宿題を進める会」を実施。令和6年も、区内関係機関や保護者からの再開を求める声や、スクールソーシャルワーカーからの「不登校の子どもの居場所がない」という声から、区内の子どもの居場所不足という課題に向けた、学生目線での企画として、ちよだ学生ネット新幹事体制で再度企画し、8月「みんな集まれ！大学生といっしょ」という名称で実施。その後、11月から3月までの計3回、「大学生と宿題を進める会」と名称を戻し、企画・実施。

【成果】

- ①学生自ら主体的に動き、居場所づくりに対して何ができるのかを把握するための事前準備（関係機関への聞き取り、ボランティア体験）を通じて、実行することができた。
- ②「(子どもが)朝からとても楽しみにしていた」「自分の将来像という点で、子どもの成長につながって嬉しい」と保護者から毎回好意的な感想があり、子どもにとって将来のイメージを持つ機会となった。



延べ参加者数23名／延べ参加ボランティア数71名

【8】ネットワークづくり

■区内大学ボランティア・社会貢献活動等担当者連絡会 ■こども食堂連絡会

ボランティアセンターとしてのネットワーク機能により、様々な地域資源のネットワークを構築・拡充を目指し、下記 2 つの連絡会を初の試みとして開催。



区内大学ボランティア・ 社会貢献活動等担当者連絡会

【内容】

区内の各大学の上記担当者が集まり、顔の見える関係づくりを行うことで、相互の情報交換や課題の共有を行うとともに、連携強化を図り、協働して大学生によるボランティア活動の推進を図るために開催

【成果】

各大学の取り組みや抱える課題(例:「ボランティア団体やサークルがないため、個別コーディネートが難しい」「外部からのボランティア情報の掲載依頼が多すぎてどのように対応したらよいか」等)を共有し合うことで、相互に気づきのある場になった。

参加大学数:計 8 大学

こども食堂連絡会

【内容】

区内でこども食堂の運営や支援を行っている団体が課題の共有や連携を図り、その取組みの輪を広げるために実施。

【成果】

各子ども食堂の取組みや抱える課題を共有し合う場にすることができた。

【課題】

物価高騰が続く中、こども食堂が孤立しないような補助制度等を行政等と協議していく必要がある。

参加団体数:計 6 団体

【8】情報発信

情報誌、メールマガジン、SNS 等

■ボランティア情報誌

○通常号

ボランティア募集、イベント情報、ボランティアサークルに所属している学生による活動体験、ボランティアセンター事業の紹介などを掲載しています。
(5,500部 隔月発行)



○特別号

ボランティア活動の普及啓発や、区内で活躍するボランティア団体の活動の紹介をしている他、福祉にまつわる著名人のインタビューを掲載しています。(年1回発行)



■情報ステーション

区内の商店や学校、施設等のみなさまにご協力をいただき、ボランティア情報誌をとれるステーションを設置しています。

設置数

286箇所

■SNSを活用した情報発信

ボランティア・市民活動情報をすぐにお届けできるよう、Facebook、Twitter を開設しています。



Facebook



Twitter

■メールマガジン～千代田でつなメール～

Eメールを活用して、地域情報やボランティア・市民活動の情報を幅広く提供しています。
(毎週火曜日配信)



メールマガジンの配信登録は、
こちらの QR コードからできます

■各種ハンドブックの発刊

- ① 初めてボランティアをする方へ向けた「ボランティアハンドブック」
- ② 初めて災害ボランティアをする時、依頼する時のハンドブック
「知っておきたい！災害ボランティアのこと」
- ③ 福祉・医療等支援者のための、ボランティア(インフォーマル)支援を取り入れる方法



社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター

〒102-0074 千代田区九段南 1-6-10 かがやきプラザ 4 階

電話 03-6265-6522 FAX 03-3265-1902

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.jp URL <https://www.chiyoda-vc.com/>